

# 「消火器」の「使い方の説明」も「イザという時」に役立つように「ひと工夫」で改善のレベルUP

「改善のレベルUP」には

- ①改善の「積み重ね」(連続改善)
  - ②改善の「組み合わせ」(複合改善)
- の「2つの方法」がある。

「連続改善」とは「ひとつの改善」で満足せず、さらに、「ひと工夫」を加えること。

「複合改善」は「2つ以上の善」を組み合わせ、「より良い効果」を得る工夫である。

☆

「消火器の使用法」は右頁の上部的ような「一般的な説明」が、掲示されている。

その内容は、簡潔明瞭でわかり易い。だが、「当然の出火」で、慌てふためいている時、本当に役立つだろうか。「消火器」が必要なのは、突然の非常時である。

そのような時、

- \*「冷静に、対応しましょう」
  - \*「慌てず、落ち着いて、対処しましょう」
- などの「お説教」は役に立たない。

「突然の出火」なら、誰もが慌てるものだ。「慌てず対処できる」のは悟りきった人だけ。「普通の人間」は、そうはいかない。

ゆえに、必要なのは

- 「慌てるな・冷静に・落ち着いて」
- などとう「精神論」ではなく、
- ◎「慌てても・間違えナイ化」
- ◎「慌てても・対処できる化」
- という「工夫」である。

そこで「ピノキオの説明書」という改善。それは「ピ・ノ・キ・オ」の音に、それぞれ、

- ①「ピ」=「ピン」を取る
- ②「ノ」=「ノズル」を取る
- ③「キ」=「キヨリ=距離」を取る
- ④「オ」=「オス=押す」

-----と「短い言葉」を当て嵌めるための。

これら、「2つの説明書」を比べた場合、どちらが「役に立つ」だろうか。もちろん、「平常」ならば、「通常の説明書」のほうが、わかり易い。

だが、消火器が必要な「非常」では、どうだろうか。ピノキオの絵と「ピ」の「大きな文字」が、「ピンと抜く行動」へ導く。

☆

とは言うものの、「突然の非常時」には、「ピノキオの説明」すら、読めないだろう。だが、この「文言」を、一度でも読んできれば、「イザという時」に役に立つ。つまり、「ピノキオの説明書」は、むしろ、平時に、読んでおいてもらうのに役立つ。

「通常の説明書」は、それほどの関心を持たれない。また、たとえ、読んでも、記憶に残らないので、非常時に役に立たない。

ところが、「ピノキオの説明書」ならば、通りすがりでも関心を持って、読んでくれる。しかも、印象に残るので、とっさの動作に対応できる。

もちろん、「ピノキオの説明書・だけ」の掲示ではなく、「通常の説明書」との「組み合わせ」=「複合改善」が、もっと効果的であることは、言うまでもない。

消火器の使い方		
①安全ピンに指をかけ、上に引き抜く	②ホースをはずして火元に向ける。	③レバーを強く握って噴射する。
		

「使い方の説明」としては、わかり易い。だが、とっさの時、役に立つだろうか？

「突然の出火」で慌てても「ピノキオのイラスト」と「短い文言」で、とっさに対応できる。



# 「アレがダメなら、コレ」 「コレがダメなら、ソレ」と 「アレ・コレ・ソレ」の3段階の 「連続改善・複合改善」で問題解決

「改善」は一発で、すべてが、うまくいくものではない。「良かれ」---と思って、やった改善が「裏目」に出て「改悪」となることもある。

あるいは、「改悪」ではなくても、「思ったほどの効果」が得られず、落胆することもある。

そんな時、どうすれば、いいだろうか。

- ◎「やってダメなら、また改善」
- ◎「それでもダメなら、さらに改善」
- と「次の改善」に取り組むべきである。

☆

「消火器」の前に、モノを置かれると困る。イザという時、「消火器」を取り出せないからだ。そこで、壁に「消火器の前にモノを置かないでください」---という貼紙をした。

だが、誰も、その「注意書」を守ってくれない。さすがに「大きなモノ」は置かれなくなかったが、「台車」などは、平気で置かれている。

おそらく、「一時的に置く・だけ・だから構わないだろう」という感じだろう。そこで、今度は、「壁」に加えて「床」にも「消火器の前に、モノを置かないこと」---と、少し強い表現の「注意書」を貼ってみた。

しかも、周囲を「緑色」のテープで囲って見た。イヤでも「目立つ」ので、今度は誰も置かなくなった。これこそ、

- ◎「壁がダメなら、床で」
  - ◎「アレがダメなら、コレで」
  - ◎「目立たないなら、目立つ化を」
  - という「連続改善」の好例である。
- このように、「最初の改善」がダメでも、それで諦めたり、フテ腐れたり、落胆することはない。

もちろん、とりあえず、「壁の貼紙」の「表現や表示方法」をもっと強く、目立化するという工夫もある。だが、「壁・だけ」でなく「視点・場所」を変え、「床」にも貼るのが、もっと効果的だろう。

「壁」よりも、より「置きニク化」という「心理的な効果」があるからだ。

この場合、「床」の「注意書」で、問題は解決された。だが、実際は、それでもダメということもある。

- その場合、「さらに改善」をすればいい。
- 「注意書」ではダメなら、「消火器」の前に
- ◎「簡単な柵」などを設ける
- ◎「軽いフレーム」などを置く
- という方法もある。

「注意書」という「視覚」に訴える方法で「置きニク化」がダメなら、物理的な方法で「置けナイ化」という工夫である。

- このように
- ☆「角度」を変えての「対策」
- ☆「視点」を変えての「対処」
- ☆「方法」を変えての「対応」
- などが「連続&複合・改善」である。

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
「壁」に、注意喚起の「貼紙」をしたが、あまり効果なく、「台車」などが置かれていた。	「消火器」の前の「床」に、「貼紙」をして、周囲を「緑色」のテープで囲んだ。
	
<b>効果</b> 「消火器」の前に、モノを置かれることがなくなり、イザという時、「消火器が使えない不安」を解消できた。	

- 「最初の改善」がダメなら、
- ①「壁の貼り紙」の工夫  
「表現&表示方法」を変えてみる
- ②「壁」から「床」へ  
「貼る場所」の「変更&追加」で  
「心理的な置き・ニク化」を図る
- ③それでもダメなら  
「簡単な柵」や「軽フレーム」で  
「物理的に置け・ナイ化」を図る



# 「向き・方向」を 「変えた・だけ」で、 「ムダな動作の繰り返し」を手抜き

「改善＝大変」という「誤解」を解くには、  
「〇〇した・だけ」という「だけ・事例」の  
「大量紹介」が効果的である。

- たとえば、
- ◎「右のものを、左にした・だけ」
  - ◎「横のものを、縦にした・だけ」  
あるいは
  - ◎「形状をちょっと変えた・だけ」
  - ◎「角度や方向を、変えた・だけ」
  - ――などの改善だ。

☆

- 「右頁」の事例も、まさに
- ☆「向きを、変えた・だけ」
  - ☆「方向を、変えた・だけ」
  - ――の改善に過ぎない。

だが、「改善のナイ職場」ではこのような  
「変えた・だけ」という「簡単な改善」すら  
なされない。

そのため、「計器の数値」を読み取るため、

- \*「イチイチ・回り込む」
- \*「そのつど・移動する」
- \*「ワザワザ・覗き込み」

――などといった「ムダな動き」や「余計な  
手間」を繰り返している。

しかも、そのような「ムダの繰り返し」が  
続いている。いつまでたっても、誰もそれを  
改善しようとしなない。

「ナゼ、そんな動作を繰り返すのか」  
――と尋ねると、  
「昔から、そうしているから」

「以前から、そうだったから」  
「そうするように、指示されたから」  
――などの応答。  
つまり、「ムダ」をムダと認識していない。  
だから、それを改善しようとか、「ムダ」を  
省こうという気持もない。  
まさに、ただ単に、惰性で「体を動かして  
いる」に過ぎない。そこには「何のために」  
「その動作」をするのかという「目的意識」  
もなければ、当然のことながら「改善意欲」  
もない。

だが、「改善マインド」のある職場では、

- \*「イチイチ」
- \*「そのつど」
- \*「ワザワザ」

――などの「繰り返しはムダ」と気づいた  
瞬間、その「ムダを省く」ことに、アタマが  
働き始める。

このような「繰り返し」を省くには、「あ  
らじめ・前もって」という「事前対応・先手  
対応」が有効である。

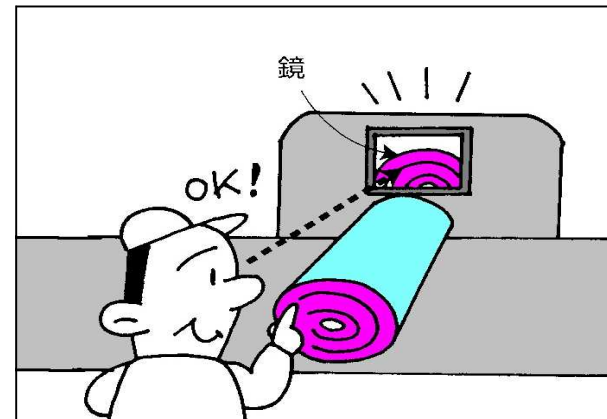
つまり、次もまた、「計器の数値」を読み  
取らなければならないのだから、そのつど、  
イチイチ、ワザワザ移動しなくていいように、

- ◎「あらかじめ、こちらを向けておく」
- ◎「前もって、鏡を設置しておく」
- ――など。

たった「それ・だけ」で、今後の「ムダの  
繰り返し」が省ける。その「集積・効果」は  
けっして「小さなもの」ではない。

改善前（問題点）	改善後（対策）
「圧力計」を見るため、 ワザワザ、回り込んでいた	圧力計を90°回転させ、 その場で「見える化」した。
	
効果 ワザワザ「回り込むムダ」が省けた。	

「計器の向き・方向」を「変えた・だけ」で、  
「計器」の数値を読み取るため、「機械の横」に  
「イチイチ・ワザワザ回り込む」という  
「ムダな動作&手間」を省くことができた。  
「〇〇した・だけ」の「改善的・手抜き」。



「イロイロな制約」で、  
「向き・方向」を  
「変えられ・ナイ場合」は、  
たとえば、「金鏡」などの

「補助具・活用」によって  
「ムダな動作」からの  
「手抜き改善」も可能

# 「カギ」は置くな・重ねるな ボードに吊るせば、 見える化→わかり易化→戻し易化

「簡単な改善」をバカにした言葉に、  
「右のものを、左にした・だけ」  
「横のものを、縦にした・だけ」  
ーなどがある。

これらの悪口を逆手に取ることで、「〇〇した・だけ」という「だけ・改善事例」を「改善に対する誤解」を解くための「絶好な教材」として活用できる。

☆

ある会社で、「大量のカギ」を引き出しに入れていた。そのため「必要なカギ」を取り出すのに苦労していた。

「改善のない職場」では、「なにしろ、数が多いから大変なんですよ」「探すのに手間取るから、イヤになるよ」ーといった「無益なセリフ」が繰り返されている。

だが、「改善マインド」のある職場では

\* 「横置き→縦置き化」

\* 「置くな→吊せ・立てよ」

ーといった「改善の定石・改善の公式」、すなわち、「改善の原理・改善ノウハウ」の応用がなされる。

そして、「カギを吊す」という改善が実施される。すると、「必要なカギ」が、一目でわかるので、もはや、「大量のカギ」を掘り起こしたり、毎回、イライラしながら探すという「無益な作業」もなくなる。

さらに、ボードに「カギの定位置」などを表示すれば、「使い終わったカギ」は、常に

「元の位置」に戻せる。

それによって、「整理整頓の原則」である「使ったものは、元の位置に戻す」という「定置化」を、ムリなく、「余計な手間」をかけず、スムーズに実施できる。

このような

\* 「探さナイ化」

\* 「迷わナイ化」

\* 「間違えナイ」

\* 「イライラしナイ化」

ーなどの「素晴らしい効果」は、いったい「どのような改善」によって、もたらされたのだろうか。

ただ単に「横のものを、縦にした・だけ」に過ぎない。たった「それ・だけ」のことで「立派な改善」となっている。

このような「〇〇した・だけ」という簡単な「だけ事例」を紹介することで、「改善は大変」という「誤解＝誤った理解」を解くことができる。

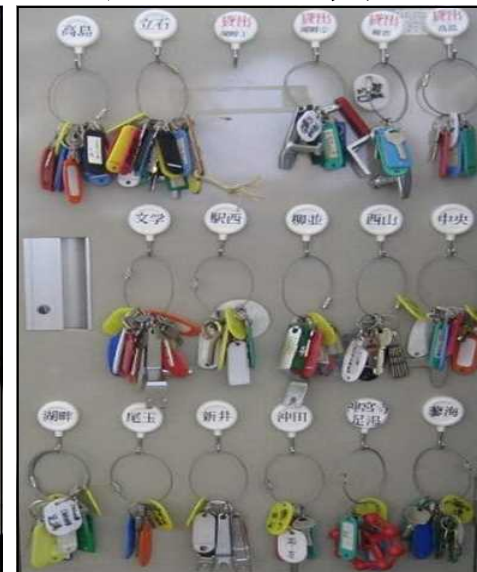
☆

この事例に対して、十分なスペースがなく、「大きなボード」を設置できない場合、どうすればいいのかーという反論もある。

そのような場合、ムリに「全部のカギ」をボード化する必要はない。「頻繁に使うカギだけ」を吊せばいい。

それだけでも、かなり「探し易化・やり易化」が図れる。これこそ「制約対応」という「改善的な知恵」である。

# 横のものを 縦にしただけの改善



**横** = 舌雑に積み重ねていたカギを

**縦** = フックに吊り下げる・だけで、

◎ 一目でわかる化 ◎ 探し易化

◎ スグわかる化 ◎ 戻し易化ーの改善



「十分なスペース」がなければ、制約に対応して、  
「頻繁に使うカギ・だけ」でも「吊す化」すればいい。

## 「色分け化」で「間違い防止」

### 「間違いの原因＝似ている」から。 ならば、「間違えナイ化」には 「色分け化→似ナイ化」すべし

「間違いの原因」は「似ている」からだ。「よく・似ている」と一目で、判別できナイ。そのため「迷い」が生じる。そして、それが「間違い」を誘発する。

ゆえに、「迷わナイ化→間違えナイ化」とするには、マズ、何よりも「似ナイ化」しなければならない。

☆

たとえば、機械の「ネジのサイズ」には、「ミリ」と「インチ」の2つの体系がある。それらは、微妙に似ており、咄嗟に判別するのは難しい。

間違っ取り付けると、ネジのピッチが合わず、うまく嵌まらない。ムリをするとネジ山が潰れたり、不良品となる。

もちろん、このような「サイズ・体系」は「統一される」のが望ましい。2つの体系が混在しているから、「混乱と間違い」が生じているのだ。

だが、「体系の統一化」など「大変」だ。すぐできるものではない。それぞれに「長い歴史」があるので、当分の間は混在が続くだろう。

それが現実である。そして、そのような「現実の不都合」に、手っとり早く対処するのが改善である。――といっても、そんなに難しいことではない。

この場合、「インチ・ネジ」を、赤く塗る「色分け化」の改善がなされた。これなら、「一目で・わかる化」となり、絶対に「迷う

こと」もない。おかげで「迷わナイ化→間違えナイ化」となった。

☆

工場の中で、「似ているもの」といえば、「配管やバルブ」など、だろう。そのため、それらが何処に接続されているか、イチイチたどって、確認しなければならない。

そのような状態では、必ず「バルブ開閉の間違い」が発生する。

「改善のない職場」では「間違いの原因」として「不・注意」や「確認・不足」などが指摘される。すると、その対策は、

★「注意する」や  
★「確認を徹底する」  
――といった「心構え」や「精神論」になってしまう。

だが、この場合、「間違いの真の原因」は、けっして、「心構え」や「精神の緩み」ではなく、「似ている」からである。

それゆえ、

★「注意・不足だと、間違う」  
★「確認・不足だと、間違う」  
――ということになっていたのだ。

ならば、この場合の、「真の間違い防止・対策」は「似ナイ化」である。たとえば、「配管はバルブ」の「色分け」など。

これなら、「一目で・わかる化」となり、もはや、けっして「迷うこと」はない。それゆえ、「間違うこと」もない。これが「やり方を・変える」――という改善である。

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
インチ・ナット (3/8)は、 ミリ・ナット (10mm)と、 見た目が同じで区別が困難	インチ・ナットに 赤い油性ペンで色付けした
	
効果：一目で、区別できるようになり、 「迷い」や「間違い」がなくなった	

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
「液ライン」と「ガスライン」 の区別が、わかり難く、 「間違える恐れ」があった	バルブに「番号」をつけ、 また「色分け」した
	 
効果：「一目でわかる化」となり、 (迷わナイ化→間違えナイ化)ができた	

# 見える化 & 丸・見え化で 一目でわかる化 & 誰でもわかる化 工場の改善を事務にも応用

「改善の定石」で、最も「効果的」なのは「見える化」や「見せる化」――などだろう。なにしろ、人間の「知覚情報」の大部分は「視覚」に、頼っているからだ。

とりわけ、効果的なのは「丸・見え化」だ。「モロ」に見えれば、「全部の視覚情報」が得られる。そのため、

◎「一目で、わかる化」

◎「良く、わかる化」

◎「スグ、わかる化」

◎「誰でも、わかる化」

――という効果につながる。

☆

では、「丸・見え化」には、どうすれば、いいか。それは「蓋やカバー」など、視線や視界を「遮っているもの」を「やめる・減らす」ことだ。

手っとり早いのは、それらを取り外してしまふ。そうすれば、「丸見え化＝モロ見え化」となる。

もっとも、「安全」や「異物混入・防止」のため、どうしても、「蓋」を取り外せないこともある。その場合は、「蓋を透明化する」――など、「別の方法」を考えればいい。

たとえば、「鉄板の蓋」を、「透明なアクリル板」にすれば、「丸・見え化」となり、「部品の残量」が「一目でわかる化」となる。

すると、「適時の補充」ができる。お陰で、それまでのように「部品・切れ」によって、操業中断で、困ることもなくなった。まさに、「困らナイ化」の改善である。

☆

「見える化」や「丸・見え化」――などの「改善の定石」は「工場の現場だけ」でなく、「事務所の改善」にも応用できる。

たとえば、「予備のテープ」が「机の中」だと、補充する時、探さなければならない。だが、「テープ台」に、モロに、ムキ出して置けば、まさに「丸見え・モロ見え」なので、もはや、探す必要はない。

誰でも、スグ、即座に、さっさと「予備のテープ」を補充できる。「探すというムダ」からの見事な「改善的・手抜き」である。

☆

もっとも、この場合「予備のテープ」を

- ①「置ける」
  - ②「置いて、邪魔にならない」
- ――という「好・条件」が揃ってた。

しかし、「異なる種類のテープ台」では、そうではないかもしれない。すると、

- \*「私の職場では、改善できない」
  - \*「状況が異なるから、応用は不可」
- ――などと言う人も出てくる。

それぞれの職場で「条件・状況」は異なっている。よって、「他者・他職場の改善」をそのままネーることは、できないだろう。

だが、「改善事例・そのもの」ではなく、「改善の原理・原則・定石」などは、たとえ、「条件・状況」が異なっても、応用できる。

たとえば、「丸見え化」は、できなくても、「予備テープの保管場所」を表示するなど、それも、立派な「見える化」の改善である

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
ナット補給機の 中が見えないので、 残量がわからない。	鉄板の蓋を アクリル板に変えた
	
<b>効果</b> 残量が「一目でわかる」ので、 適時に補充でき、装置停止がなくなった	

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
ゼロテープの予備を 引出しに入れていたので 補充時に探していた	ゼロテープ台に 予備のテープを置いた
	
<b>効果</b> いつでも、誰でも、スグ、その場で、 テープの補充ができるようになった	

予備のゼロテープを常備。  
使い切っても即補充！  
探さない、  
迷わない、  
間違わない！  
次の人への思いやり。

## 「補助具・変更」で

### ①昇らナイ化→安全化・安心化

### ②メンドウくさくナイ化＝手軽化

### ③やり易化・ラクちん化＝気楽化

「古民家風」の旅館では、「巨木の梁」が剥き出しになっている。古風で、風格があるのだが、ひとつ困ったことがある。

それは、梁の上部に「埃」がたまること。そのため、時々、脚立に昇って埃を取らなければならない。「古き良きもの」の維持には「手間とカネ」がかかるものだ。

ワザワザ、「脚立」を用意しなければならぬのでメンドウ。しかも、何度も、脚立を移動させ、昇ったり、降りたりしなければならない。

それゆえ、イロイロな仕事に追われ忙しい時は、ついつい「後回し」になってしまう。

だが、埃は「人間の都合」などお構いなく、少しずつ塵々と積もっていく。油断していると、うっすら白くなり、せっかくの「古風な梁」も見栄えが悪くなる。

☆

「改善のない職場」では

「掃除を怠らないこと」

「気をつけて、掃除すること」

ーといった「お説教」が繰り返されるだけだろう。

だが、「忙しい職場」では、そのような精神論は何の役にも立たない。一方、「改善の盛んな職場」では、

「もっと簡単な方法を工夫しよう」

「スグできるやり方に改善しよう」

ーという声が出てくる。

そこで、ワザワザ、脚立を用意しなくても

いいように、高い所にも届く「長い柄」のついたワイパーを使うことにした。

これなら、いつでも簡単にできる。まさに、「補助具・変更」による「改善的・手抜き」である。

☆

「ワザワザ、〇〇しなければ、ならない」

ーのはメンドウである。メンドウなことは、どうしても「後回し」になりがち。

「後回し」を防ぐには、精神論などよりも、「メンドウ・くさく・ナイ化」という改善のほうで、手っとり早く効果的である。

☆

「長い柄」によって「脚立」を不要にするという「手抜き改善の効用」は、ただ単に、「メンドウくさくナイ化」だけではない。

社員にとって、もっとも重要な「仕事の安全化」にもつながっている。「脚立」であれ、「パイプ椅子」であれ、何かに昇れば、必ず「落下」という危険が付きまとう。

「昇る」から「落ちる」のだ。それゆえ、「昇らナイ化」すれば「落ちナイ化」となる。それこそ、「落ちる原因」を取り除くという「原因対策の改善」である。



これら「長い柄」に変更という「補助具・変更」の改善には

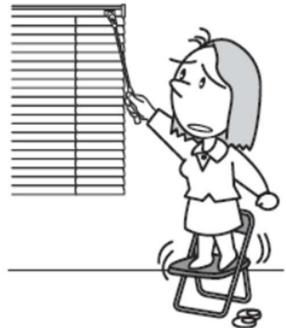
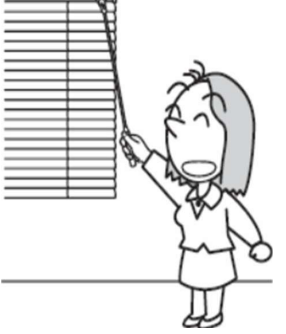
①「メンドウくさくナイ化＝すぐできる化」

②「ラクちん化・やり易化＝手軽&気楽化」

③「昇らナイ化→落ちナイ化＝安全安心化」

ーという「3つの効用」がある。

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
「太い梁」の埃を取るのに脚立に昇っていた。	高い所にも届く、長い柄のクィックル・ワイパーに変えた。
	
効果 ワザワザ、脚立を用意する必要もなく、安全に、手軽に、即座に、清掃できる	

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
パイプ椅子に乗ってのブラインドの調整でヒヤリとすることがあった。	普段、操作することのない別のブラインドの「長い棒」に交換した。
	
効果 椅子に昇らなくても、手が届くので、安全に、手軽に操作できる	

# 「忘れ・ても、気づく化改善」の「簡単事例」と「実際の事例」の「組み合わせ」による事例教材化

仕事には「モレ・忘れ・うっかり」などがつきものである。「改善のナイ職場」では、「忘れるな」「うっかりするな」  
「うっかりするな」  
—という注意がなされるだけ。

だが、人間は忘れたり・うっかりする動物だ。そのような人間に対して「忘れるな・うっかりするな」と言うのは、あかも「人間をやめろ」と言うようなものではないか。

一方、改善の盛んな職場では、そのような問題に対して、

- ①「忘れナイ化」
- ②「忘れニク化」
- ③「忘れテモ化」

—という「3段階」の工夫がなされている。

もちろん、「忘れナイ化」が最善である。だが、それがムリなら「次善の対策」として、「忘れニク化」でもいい。

そして、「最後の手段」として、たとえ、忘れても、「スグ、気づく化」という工夫もある。

「忘れっ放し」では困るが、スグ気づけば、少なくとも「最悪の事態」は食い止められる。ゆえに、それも立派な改善だ。

☆

たとえば、ネジを締め忘れ・ても、スグ、気づく工夫として、「あらかじめ、6個のネジを別の皿に出してから締め始める」という改善がある。

すると、たとえ、「1個のネジ」を締め忘

れても、「次の6個」を用意する時、ネジが残っていることに気づく。

そこで、締め忘れに気づき、スグに対処できる。少なくとも、不良品がそのまま流れていくのを食い止めることができる。

もっとも、このような「単純化した改善」に対して、多くの人は「アイデアは、いいのだが—」「話としては、おもしろいが—」—といった反応を示す。

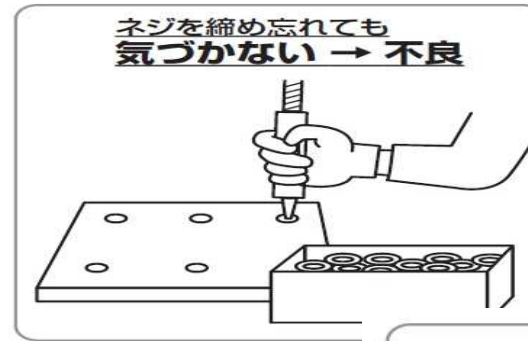
そこには「自分の仕事はそんな単純なものではない」「現実、そううまくいくものではない」—という意味が込められている。

たしかに、「単純化した事例・だけ」では説得力がない。そこで、「わからナイ人」を「わからせる」には、「組み合わせ」という工夫が必要となる。

また、「具体的な実際の事例・だけ」でも不十分。なぜなら、「事例の細部」に囚われ、「改善の原理・原則」を読み取れない人々は「自分の仕事は、そのようなものではない」—と言うかだから。

だが、右頁上部の「単純化事例」と下部の「作業を始める前に、金具を別のケースに用意した」という事例との「組み合わせ」ならどうだろうか。

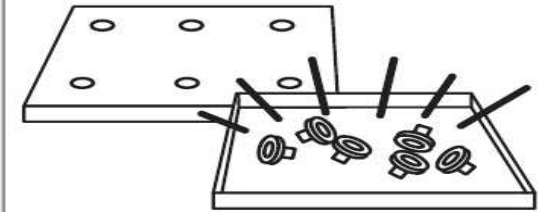
「単純化・事例」と「具体的な事例」とを「組み合わせる」ことで「改善の原理原則」を「実感→理解」できる「事例教材」となる。




「ても化改善」  
「食い止め化」

たとえ、忘れても、スグ、気づく化で、スグ、対処できる化。

あらかじめ、ネジを6個  
ケースに取り出しておく



忘れたら、スグわかる・気づく  
忘れても、即座に対処できる

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
埋込金具を収納ケースから取って付けたが取り出しにくい上、金型への取付け漏れが発生する恐れがある。	金型に取付ける埋込金具の個数分を事前に数物を入れた別のケースに事前用意するようにした。
改善前 	改善後  金型に取付ける埋込金具4個を事前に用意する。
<p>効果：必要な数の埋込金具を入れるケースを使用することで、作業中に取出しやすくなり、取付け漏れも防げる。</p>	

- 実施済み
- 改善予定
- 問題点のみ

やりニク  
不確実

ラクちん化  
確実化